

箱根ガラスの森美術館 特別企画展

「魅惑の香水瓶～貴族が愛した香りの芸術～」

【概要】

箱根ガラスの森美術館(館長 岩田正崔)は2015年4月25日から11月23日まで特別企画展「魅惑の香水瓶～貴族が愛した香りの芸術～」を下記の通り開催いたします。

古より神々に捧げられ、神秘的な力を秘めた香りは、やがて自らを魅力的に表現する香りの「宝石」として、衣装や宝飾品とともに貴婦人たちに広まっていきます。

その先駆けとなったイタリアを代表するメディチ家のカテリーナ・デ・メディチは、1533年フランス王アンリ2世のもとに嫁ぐ際、ヴェネチア製の鏡や、優れた調度品を多く持参したほか、自国の調香師を伴い、香りの文化をフランスにもたらししました。

香水と香水瓶は、フランスの貴族の間で一気に花開き、以後ヨーロッパ貴婦人たちは、自身の趣味や嗜好、審美眼を反映させた香水や、多種多様な素材で魅惑的なデザインの香水瓶を挙げて創らせるようになりました。

本展は、イタリア、ヴェネチアのモチェニーゴ宮殿美術館や、ドイツの香料メーカー、ドロム・フレグランス・インターナショナルなどの貴重な作品を展示。古来よりの人々の心を魅了してやまない、甘美な香りの世界を彷彿とさせるガラス香水瓶を中心に約160点をご紹介します。

記

【タイトル】 「魅惑の香水瓶～貴族が愛した香りの芸術～」

【会 期】 2015年4月25日(土)～11月23日(月祝)

午前9時～午後5時30分まで(入館は閉館の30分前まで・会期中無休)

【主 催】 ヴェネチア市立美術館総局、箱根ガラスの森美術館、毎日新聞社

【後 援】 イタリア大使館、イタリア文化会館、箱根町

【協 力】 ムラーノ・ガラス美術館、モチェニーゴ宮殿美術館、
drom fragrances international、MAVIVE、
一般財団法人 箱根町観光協会、小田急グループ、
フレグランス デザイナー 山下文江

【入 館 料】 (税込) 一般1,500円 高大生1,100円 小中生600円

＜お問い合わせ＞ 箱根ガラスの森美術館 広報担当 日吉・坂元・根本

〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原940-48

TEL: 0460-86-3111 fax: 0460-86-3116 E-mail: museo@ciao3.com

【1章 貴婦人たちが愛した香りの器】

ポンパドール夫人やマリー・アントワネット、カテリーナ・デ・メディチなど文化をリードした貴婦人の香りを美術館内で表現するとともに18世紀の香水瓶を紹介します。

磁器製香水瓶（マイセン窯製、チェルシー窯製など）

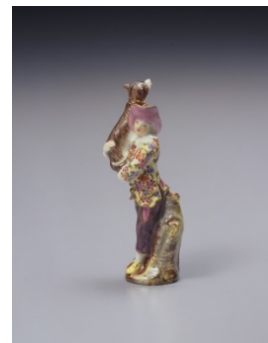
マルコ・ポーロが中国から持ち帰った白磁への憧れから、永年の研究を重ね、ついに1710年にドイツのマイセン窯で磁器の生産が始まります。磁器の美しさは貴婦人たちを魅了し、香水を入れる容器として愛用され香水文化を華やかに彩っていきます。

「犬を抱く少年像香水瓶」

ドイツ マイセン窯

1745～50年頃

箱根ガラスの森美術館所蔵



「踊る男女像香水瓶」

イギリス Girl in a Swing 窯

1751～54年頃

箱根ガラスの森美術館所蔵



「ポプリポット」

磁器：マイセン窯1745～50年

組立：フランス 18世紀末

dorm Flacon Museum 所蔵

【2章 近現代の香りを彩るガラスの器】



19世紀、前世紀に大流行した磁器製の香水瓶に代わり、香水の品質を保つことに優れているガラスに注目が集まるようになりました。形や大きさ、色を思い通りに作ることができるガラスを使った個性的で魅力ある香水瓶を紹介します。

「馬車形香水瓶」 イタリア ヴェネチア 1860年頃

箱根ガラスの森美術館所蔵



「マクシミリアン1世ポートレート香水瓶」

フランス パリ

1810 - 20年頃

バカラ

dorm Flacon Museum 所蔵



「アネモネ“香水瓶”

フランス

1990年

サン・ルイ工場

dorm Flacon Museum 所蔵

【3章 香りの起源を辿る】

古代、香りは神に捧げるものとされ、薫香や芳香を移した油が使われていました。中世以降、周辺諸国との交易が進むと、イスラムから薔薇の香りを移した「薔薇水」がヨーロッパに伝わり憧れの的となりました。香油瓶や薔薇水を散布するための特徴ある器を紹介します。



「ローマン・グラス滴形香油瓶」

古代ローマ 1世紀

箱根ガラスの森美術館所蔵



「イスラム・グラス薔薇水瓶」

イラン 11～12世紀

箱根ガラスの森美術館